

国体まであと100日



最優秀賞に選ばれた 高梁城南高校デザイン科 2年生 安原哲也さんの作品。ポスターとなり市内外へ貼られます。

晴れの国おかやま国体秋季大会まで7月14日で、ちょうど100日前となりました。
この日を記念して7月10日に100日前イベントと合火式が高梁総合文化会館で行われました。

秋季大会開催 100日前 イベント



ソフトボール全日本女子ナショナルチームの前監督・宇津木妙子さんを招き、『夢と人生』と題して記念講演がありました。指導者としての経験を踏まえたお話に、約700人の聴衆が熱心に耳を傾けていました。

当日は、ナショナルチーム

前メンバーで、昨年のアテネオリンピックでも活躍した投手の坂井寛子さん、内野手の伊藤良恵さんも来場。ゲスト3人からのサインボールのプレゼント抽選会に、会場は大いに盛り上がりました。

また、会場内では、高梁城南高等学校デザイン科2年生の皆さんによる「高梁会場広報用ポスター原画」の作品展も行われ、会場を訪れた人たちは、いずれ劣らぬ出来栄の作品に見入っていました。



うつぎ 宇津木妙子さんの講演

ソフトボールとの出会いから、苦勞して猛練習の末レギュラーを勝ち取ったこと。また監督時代にチームづくりをする上で、「あいさつをする」、「時間厳守」、「整理整頓」、「相手を気づかう」など守ることを決め、選手とのコミュニケーションを大事にしてきたことなどに触れ、常に目標を持ちそれに向かって頑張ってきたことが話されました。民泊体験のある宇津木さんは、30数年前にお世話になった民泊の人と今でも交流しているそうです。「選手たちには、真心での歓迎が一番」とアドバイスがありました。



いよいよ



合火式ごうか

市内の各小学校で児童たちが工夫して採った火が一つになりました。この火は「新高梁市創造の火」と命名され、8月10日に後樂園（岡山市）で行われる県内の火が一つとなる集火式へ運ばれます。

火は夏季大会、秋季大会、さらに障害者スポーツ大会のそれぞれの開催期間中にメイン会場で炬火きよかとしてもされ、全国から集まる選手たちを見守ることになります。

炬火は県内各地でさまざまな方法で集められますが、高梁市では6月20日から7月6日にかけて、全小学校21校で児童たちが工夫して採火しました。

虫眼鏡や凹面鏡で集めた太陽光の熱を利用したり、木軸を回転させた時の摩擦熱を利用する昔ながらのマイギリを使ったりと工夫しました。炎が上ると、どの小学校でも、児童たちから大きな歓声が上がっていました。

採火の一例

巨瀬小学校では…

巨瀬小学校では、6月28日に太陽光を使っでの採火を予定していましたが、天候が悪く30日に行いました。

児童たちが考えたのは、透明のビニールシートに水を張ってレンズ代わりにし、太陽光を集めて火を採る方法。

校長先生のあいさつの後、児童の代表が円形の金属枠に張ったビニールシートに水を入れ凸レンズを作りました。別の児童が凸レンズの焦点に黒色の画用紙を当てると瞬時に発火し、児童たちから歓声が上がりました。早速、その火をトーチへ移し、ランタンに点火した後、カイロに保管されました。

採火の後、「せっかくの機会なので、誰か火をつけてみたい人」と先生が呼びかけると「僕も、私も」と多くの児童たちが凸レンズの前に集まり、火おこし体験を楽しんでいました。この日は曇り空だったため太陽が雲にかくれるたびに先生や児童から「あーあ」とため息がもれていました。児童たちにとって忘れられない思い出となったようです。

ビニールに水を張ってレンズを作ります



⓪ 黒の画用紙に光を集めて発火



⓪ 画用紙の火をトーチに移します



⓪ ランタンに点火し披露